肝臓病の検査と最近の知見

富山大学附属病院　第３内科　　河合健吾

今回は上記のテーマに基づき、①肝臓病の臨床検査技術の進歩と題して、ＣＴ検査・腹部超音波検査・採血検査・ＰＥＴ検査などにおける新たな技術を皆さんにご紹介を、また、②治療学の進歩と題して、肝がんの遺伝子異常とこれからの治療の展望などについて、若干の私見も交えてご紹介させていただきました。

これらのお話の中で聞きなれない話題や単語が多数でてきたと思います。そして内容的にも少し複雑で難しかったかもしれません。しかし、今回のお話を通じて自分が皆さんにお伝えしたかったことは非常にシンプルです。**“検査や治療法が近年これだけ目覚ましい進歩を遂げているのですから、ご自身のお病気の状態がどのような状況であっても落ち着いて前を向いて、そして希望をもって検査や治療に専念していただきたい”**ということです。過去 20 年、いや 10 年間を振り返ってみても、以前は発見できなかった病変が認識できるようになってきた、これまで治せなかった病態・病変が治療できるようになってきたなど、患者さんやご家族にとって、そして我々医師にとっても大いなる前進が続いているのが今の時代なのです。

私が本大学附属病院で主に入院患者さんの担当をさせていただいております立場にある故、入院なさる方々の様々なお心の葛藤を窺い知る機会が多々あります。（病状を重く深く受け止められる方から、ここまで楽天的にお考えになることができるのかと思う方まで本当に様々です）。一般に入院精査・加療を要する病状というのは少し複雑で込み入ったものである場合が多いのですが、逆に考えると腰を据えてじっくりと検査や治療に取り組んで、しっかり治すチャンスであると言うこともできます。実際に自分は、入院される皆さんやそのご家族がそれらの心の葛藤を乗り越え、決意をもって検査や治療に望まれるお姿を何度も何度も目の当たりにし、そして病気に打ち克っていかれる過程を数多く経験してきました。そんな自分だからこそ上記のことを心の底から感じ、皆さんに強くお伝えしたいと考えるに至った次第です。

患者さんやご家族の方々が、“頑張って病気を治そう！”という意志を持って我々に向き合ってくださる限り、我々は何らかの形でお力になれると信じていますし、自分にはその努力を続けていく覚悟があります。そして今回この肝臓病教室に熱心に足を運んでくださった皆さんなら、それができると確信しています。さあ、これからも（時には深く、そして時には楽天的に考えながら）一緒に頑張っていきましょう。皆さんの身体的にも精神的にもお健やかな生活が、これからもずっと続きますことを心よりお祈り申し上げます。